

会 議 録

会議名称	第4回伊那市文化財保存活用地域計画作成協議会	
日時	令和5年11月14日（火）午後1時30分～午後3時	
場所	伊那市役所2階第1委員会室	
出席者	協議会委員	会 長 副会長 委 員：8名
	事務局	教育長 教育次長、 生涯学習課 課長 文化財係 係長 係員3名
議題	下記のとおり	
議事内容		
<p>1 開会（13：30）司会進行：課長</p> <p>2 あいさつ 教育長あいさつ</p> <p>3 会議事項（進行：会長）</p> <p>（1）伊那市文化財保存活用地域計画について</p> <p>＜協議項目＞</p> <p>○第3回会議以降にいただいた意見について、一覧のとおりの対処がされているか。</p> <p>○各章のリード文が、題名と内容と合致しているか。</p> <p>○第7～9章で示した措置が、各章で行う内容として適切か。</p> <p>○計画全体を通して、伊那市における文化財を取り巻く状況について、考えていること、思うこと、活用に関するアイデアなど</p> <p>会長：ただ今の説明の中でご質問やご意見があればお願いします。</p> <p>委員：今の説明ではないのですが、ちょっと気になりまして、P5の文章の下から3行目、歴史的・文化的資源により…「かけがい」は「かけがえ」ではないか。</p> <p>係長：おっしゃる通りかと思しますので、表現についてこの辺も含めて。</p> <p>委員：それと、私の所属で、例言カッコをつけてあり、こういう風に使うこともあるのですが、どちらがどうかは私共も使い勝手を考えてないのですが、皆さんのところを見るとカッコがついていないので、カッコがない方がいいのかなと思ったり。強調してもらうような感じでうれしいような気もするのですが、気になった点を2点言わせていただきました。とってもらったほうがいいのかということですが。</p> <p>係長：鍵括弧を外して、古墳公園整備委員会ですらよろしいですか。わかりました。</p> <p>会長：表記上の点、細かいことでも結構ですので、もしありましたら出してください。老松場の場合は、いま一般的にはどういう、両方、古墳公園と老松場と一緒にした</p>		

表現で呼んでいるのですか。

委員：一般的というのは、私共が都合のよいように使っているところもあり、今頃気が付いてというところですが、どちらでも内容は同じなのですが、他のメンバーの方を見たら、同じようにしておいた方がいいかなということ。

会長：では、老松場の丘・古墳公園という形になります。そんなことでカッコを取るということでお願いします。他にはどうでしょう。資料を読んでいただいて、このところはと気のついたようなところ、どんな細かいことでも結構ですでお出しただければと思います。

委員：木曾山用水という場所です。P153 ここで木曾山用水というところで●印の所だけではないと、今度の改訂で水色の線で書き込んでいただいて、旧木曾山を点線で表していただいた。ありがたかったと思います。これで道筋はわかるが、この木曾山用水という言葉にこだわる。専門家の方に見ていただくといいと思うのですが、用水と言った場合に、この水の通っている水路を表現する場合もあるだろうし、そこを流れている水自体を用水という言い方はあろうかと思えます。実際に現在上戸・中条に流れていく水は北沢川の水なのです。奈良井川から取水したところを、奈良井川支流の白川から取水ということで直していただいた。これはありがたいことです。その白川からまずわさび沢へ引く。山の向こうの木曾谷川のわさび沢というところに引いて、隧道で南沢へ水を落とす。その代わりに北沢川から取水するという形になる。以前は白川から取水して、わさび沢へもってきて、わさび沢から権兵衛の嶺まで持っていった。そして北沢川へ落とし、北沢川の下流、落とすところからすぐに持ってくるのではなくて、いったん北沢川へ流れてきた水をまた取り込んで、いわゆる為替という形になると思えますが、そこから上戸・中条へ水を持っていった。そうするといったん木曾川へ落ちるはずの水が権兵衛峠の頂上へ行って、それで北沢川へ落として、その北沢川から水を持っていった。そういうことで、木曾山用水という言い方で認識しているのかなという部分があります。しかし、現在は北沢川ではなくて南沢川の方へ落としている。取水するのは北沢から取水します。そこで為替水、為替という言葉でもってくくっている。上戸・中条の今の人たちも自分たちの使っている水は、歴史的な事を知っている人たちは木曾山用水という認識があるかと思えますが、上戸・中条井というその井筋から流れてくる水を取っている、いわゆる北沢川の水という認識があると思えます。作業に出るときは、今回も昨年度崩壊があり、木曾山用水路です、それが崩壊していま使えない状態となっています。そこを整備する場合は、上戸・中条の人たちは木曾山用水という言葉で言う。木曾山用水路が崩壊したという形で認識するのだけれども、上戸・中条の人たちが今使っているのは北沢から取っている。水は全然木曾山用水路を通ってきた水ではない。途中川を挟もうが、全く別の谷の水です。言えば、この P153 木曾山用水と書いてあるところは、こういう書きっぷりでよいのかなという部分を問題にした時に、妥協をすればカッコしてここに（上戸・中条井）という言葉になるのかなとそんな風に思う。木曾山用水をどう規定したか、文章を調べたがな

い。私たち荒井区で毎年水柵検査をしています。荒井区だけではなく、水利権を持っている7区で水柵検査をしています。その水柵検査というのは、全国稀に見る検査で、ぜひここへ取り上げていただきたいのですが。そういう時に必ず私たちは3井筋という言葉を使います。大萱井、上戸・中条井、与地井、その3つを水柵検査する。広丘の塩尻水利組合の方からは、わさび沢の木曾山用水の水柵検査に来る。そのときは木曾川用水という。私たちはそこを含めて検査するのですが、木曾山用水というのは旧木曾山用水という言葉を使うように、白川から取水して権兵衛まで、これを木曾山用水、今それを使わなくなったから、旧木曾山用水という言葉を使っています。そこから辺の混乱がやっぱりここにも抜けてないのではないかという気がして、専門家の方たちはこの木曾山用水をどのように考えられて使っているのか、一般的にはこういう呼び方をしないのではないかなと、現在は。木曾山用水というのは白川の取り入れ口から南沢の柵まで、これが木曾山用水でいいのではないか。北沢川から取水するのは、上戸・中条井。この写真に載っているのは上戸・中条井なんです。だから、木曾山用水の水路と書いてあるのは、この水路のところにカッコ（上戸・中条井）ということになるのかな。これを認めるとすれば、カッコしてそういうことになるのかなと。そんなことをこだわっていますので、また専門家の言葉でもってふっていただければと思います。私たち荒井区含めて7区あるわけですが、この者たちが見たときには、この井筋は木曾山用水なのかなという思いで見ると思う。先ほどもコメントで一般の人たちが読んだときに云々とあったので、あえて言わせていただきました。

事務局：ご意見ありがとうございます。前回の会議でご意見いただきまして、私共方でも用水関係を所管している市役所の耕地林務課と相談させていただきました。資料提供もいただく中で、やはり上戸・中条井の部分の木曾山用水と捉えていいのかなどという部分も事務局にも確認した。現在、ほんとうに乱暴かもしれませんが大きな枠の中では、上戸・中条井、木曾山用水という形でとらえていますと耕地林務からお話をいただきましたので、今回の資料の中ではそのように載せてあるのですが、いまのお話をうかがう中で、上戸・中条井の部分、木曾山用水という認識の中ではカッコ付けて上戸・中条井というような表記に入れさせていただきたいと、お話をうかがいして改めたいと思ったところですが、いかがでしょうか。

委員：私も専門家ではないので、これがいつこの名称が出てきたのかというのは歴史的なものはわからない。私たちが持っている水利権の出発、江戸時代からの書物には、木曾山用水という言葉は権兵衛峠までの部分で使っている。そういう歴史書の中で、木曾山用水というものがはっきり位置づいていれば、いまの形でもいいのかなと思のですが、歴史的な書物で残っているかどうか。そこのところを問題にしておいた方がいいかなと思います。私も昨日耕地林務課に聞いたのですがあいまいでした。はっきり言えば。

会長：そういう課題があるということで、ご承知おきいただきたいと思います。それでは他の件でも結構ですのでどうぞ。

委員：私の前回見落とし的なものもあるかと思しますので、いくつかお願いします。

P23 右下地図ですが、南アルプス村長谷というのがあるのですが、アルプス村の「村」はひらがなの「むら」ですのでお願いしたいと思います。左は南アルプスむらとなっている。P58、P59 ジオサイトリストの中で、特に P59 の「甲斐駒ヶ岳」となっている。他の表記では全て「東駒ヶ岳（甲斐駒ヶ岳）」となっているのですが、これはジオの登録の時に甲斐駒ヶ岳となっているのでここだけ甲斐駒ヶ岳なのかどうなのかということで、疑問に思いましたのでお願いします。

会長：ちょっと待ってください。P58、P59 のところですか。

委員：P58 の地図上でも「甲斐駒ヶ岳（東駒ヶ岳）」になっているのですが、他の文章では全て「東駒ヶ岳（甲斐駒ヶ岳）」なんですよね。ここだけあえて違うということはそれなりの理由があったのかなということですか。P60「お鷹岩井筋」が「長谷溝口」となっているがお鷹岩自体は「長谷黒河内」なので黒河内にさせていただいたほうがよい。P61「テイ沢」ですが、おそらく入笠だと思うのですが、一般の方がテイ沢だけでわかるのかという感じがしたので、「(入笠)」と入れた方が一般の方にはわかりやすい。テイ沢だけだとどこかすぐにわからないのではないかという気がした。

会長：ではテイ沢のところいいですね。入笠を入れた方がいいだろうということですね。

委員：その方がわかりやすいかなと思いましたが。P84「きんによんによ節」という記載をしていただくように言わせてもらったのですが、あえて「きんによんによ」だけになっているということは、正確には節がないのが本当なのかどうなのかということ。地元では「きんによんによ節」と言っているのですから、その辺史実に基づいてあえてされたのかなというあたりがあります。

会長：P84 の半ほどのところですね。ざんざ節、きんによんによで、きんによんによは節が入っていないが、節と入れた方がいいのではないかと。

委員：地元では言っているのですけれど。同じ内容が P104 上から下がってきたところにきんによんによと記載がありますが、これもあえて節を抜いていただいたのか、なにか史実に基づいてそういうことなのかと気がしました。同じ内容ですけれども。次に、P124 イベントという言葉が出てきますが、まつりという、「活かす」の中にまつりは結構あると思いますが、「まつり」という言葉か「活かす」とっては大事なというか、活かしていくという中で、イベントは入ってるが、まつりという言葉についてどうかなと。下の方に（3）にはイベントの実施という言葉がありますが、各地で文化財についてまつり的なことがされているので、それはイベントの中に含まれるのか、まつりという言葉を入れた方がいいのかなという感じがしました。

会長：いまのところまでの表現をひっくるめて、事務局の方ではどうですか。きんによんによなんかの節を特に意図的に抜いて表現してあるのかどうか。

事務局：ご指摘いただいて、きんによんによ節のほう追記したのは私ですが、村誌等

見ながら、確認しながら入れていたのですが、節のところまで意識が回っていなかったところがありますので、再度確認をしてきちんとした地元で使っている言葉として入れたいと思います。いま「活かす」のまつりの部分ですが、中村委員がおっしゃっているまつりというのは、神社とか古くからの祭事というよりは、伊那まつりとかイベント的なまつりとしておっしゃられているのか、その辺のところをもう一度お聞きしたいと思います。

委員：後で言おうと思ったのですが、南アルプスの開拓には竹澤長衛という人が必要不可欠な方でありまして、長衛祭というお祭りを 65 回やっている。単に開山祭という意味ではなく、南アルプス開拓には外せない方なので、その方の遺徳をしのんで長衛祭というまつりをやっています。竹澤長衛という人が、個人のお名前なので文化財になるのかならないかわからないが、遺徳を偲んでいるまつりがあります。他にも文化財として何かお祭りをされているのではないかなという感じがしたので。イベントもまつりも一緒なので、それに含まれているという意味であればよいと思いますが。まつりも「活かす」ということからすると、大事な言葉かなと思いました。

会長：そういうふうなことを参考にしながら、表現をまた修正するところは修正してもらいたいと思います。

事務局：まつりの考え方について、イベント・祭事ひとくくりにしてしまったというところがある。個々に行っているようなまつりをすべて措置の中に盛り込むことは現状難しい部分があるので、基本目標「活かす」P114 文章の表現の中で工夫をしていきたいと思います。

会長：大切な伝統的なまつりみたいなものは他にもふると思いますので、ひっくるめてどう考えるか。現在も続いている貴重なまつり、イベント、そういう活動が停滞しないような形で、そういう方向で表現も工夫をしていただければと思う。

委員：P128 南アルプスの発展・開拓には竹澤長衛の方の業績が非常に大きい。亡くなった次の年から長衛祭というまつりをされて、こんにちで 65 回されていて、最初は伊那の山の会、途中から長谷村、いま伊那市が実行委員会を作ってやっている。単に開山祭というおまつりではなく、遺徳を偲んでそれを後世に伝えていこうということですので、竹澤長衛翁は名前がどこにも出てこないで、どこか長谷の、戸台の出身なので、戸台のところに印していただくか、業績を文章の中で触れていただくのでもよいかという気がしている。すぐにお答えは無理かと思うが、意見として聞いていただければ。P129「白崩岳」となっている表記があるが、これは東駒ヶ岳の昔の名前なのだが、高遠の図書館の中で、高遠藩の武士が書いた図面に「白崩山」と表記があったと思う。「白崩岳」ではなく「白崩山」ではないかという気がするのですが、また検討していただければと思いました。

会長：長衛さんの色々な遺品を展示してあるのがありましたね、仙流荘ですか、管理はどうなっているのですか。長谷のどこかが管理する形になっているのですかね。現在どうなっているのか把握していますか。使った鉄砲だとか銃やなにかを整理し

て展示してあったことがあったが。

委員：銃刀法違反になってしまうと騒いだ時期がありましたが、伊那市のものになっているはずです。そのコーナーも私も見たことがあります。現在どうなっているか。古い写真も含めて展示するコーナーも、簡単な所でしたがありました。ちょっと現在どうなっているか。

事務局：竹澤長衛さんの鉄砲・猟銃の関係ですが、長谷の公民館の奥の資料室の中にいまコーナーを設けて展示している。山にかかわるような生活の大きな「おが」とか山の生活を紹介するコーナーと近い所で展示活用されている状況です。

会長：2つのアルプスに囲まれた都市ということで、山の開発に貢献した人物、そういう人物をなにかの形で継承していく必要かなと思います。今のご意見等事務局の方でどうでしょうか。付け加えることは可能ですか。

事務局：即答ができないので、持ち帰ってどのような形で載せていくのか、場合によってはストーリーの中の文章で触れていくということだけになってしまうのかもしれないですが、持ち帰って検討させていただきます。

会長：検討していただくということで。他にはみなさんどうでしょう。

係長：中村さんの方から出していただいた甲斐駒の表記については、ジオパークから出している表記がありますので、そちらを確認しながら、表記についてはご指摘いただいた P129 東駒が先にきて甲斐駒がカッコ書きになっているという格好ですが、おそらく国土地理院の地図だと甲斐駒があつてという形になっているかと思しますので、その辺も含めて確認をして、表記については統一するようにしていきたいと思います。

委員：P151「さんよりこより」の表記ですが、普段「さんよりこより」とひらがなで新聞等や市報などで見て、ひらがなで表記されているが、カタカナだったのでどんなかなと疑問に思いました。

事務局：「サンヨリコヨリ」は市の文化財に指定されていて、指定名称がカタカナなので、この計画の中ではカタカナで使わせていただきます。

会長：そんなことをご承知おきください。他にはどうでしょう。

委員：第2章とか文字の大きさですが、第何章なになにとあり、リード文があつて、その下の文字とあまり大きさが変わらないような気がする。もう少し章の文字を大きくして、ここから場面が変わりましたよというところをもっと明らかにすると見やすいかなと思う。リード文が入ったので、述べることがわかって、すごくわかりやすくなったと思いました。P88 第4章のリード文、「また、市民のみなさんの…見えてきました。」という文があるが、P99 結果について、確かに書いてあるのですが、「さらにどんなことを調べれば…」の辺りが、もう少し方向性というか、そんなようなものが、結果からこんなようなことがあるといいのかなとか、あるいは第6章ではアンケートの結果から述べられているが、第5章のところでは、全国的な高まりとか、市民憲章の中でもという、このアンケートの市民の声からというような、伊那市としてもというところが入ると、繋がりとして、アンケートを受

けてというような理念をもって、繋がりとして読めるかなと思った。それから、細かいことですが、第4章既往の把握調査、「既往」は「これまで」だろうなどは思ったのですが、この言葉はよく使われているのかどうか。親しみとして「既往の把握調査」という言葉はわかりづらいかと思った。よく使われているということであればいいのかなと思うのですが。

会長：文化財の表現の点で、「既往」というのは「いままでの」ということでしょうか、既往という言葉が一般的に論文とかで書かれているのかね。

事務局：この言葉遣いですが、文化庁の指針をそのまま流し込んでしまっているだけなのです。やはり一般的でない、その言葉ということになると、誰のために何のためにこの計画を作っているのでしょうかという話にもなりますので、言い換え可能な言葉ですので、わかりやすい表現を考えていきたいと思います。

会長：工夫してみてください。確かに文化庁の指導もあり難しいところもあるかもしれませんが、あと他の流れの話も出てきましたが、その辺はどうでしょう。事務局でまた読み返していただいて、いまのご意見を参考にして、再考して表現を変えていただくということで、工夫をまたお願いしたいと思います。

係長：リード文につきましては、せっかく指摘いただきましたので、熟考して、流れというところもご助言をいただくことができましたので、その辺を参考にさせていただきながら見直しをかけていきたいと思います。

会長：確かに、このイーナちゃんのところを見ると、以下をだいぶまとめてくれるから、一から読み出すと頭がおかしくなってしまう。こうやってリード文を作って、わかりやすくなったと思いますが、またひと工夫をお願いします。

委員：今から付け加えるのは大変で書き直しとなってしまうので言いづらいですが、「ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源」P150 天竜川と三峰川、天竜川の支流の三峰川という捉えでもって構成されたということで、水を利用して云々、水との闘いという部分でまとめられていて良いとおもうのですが、これを見たときに、実はP151「美和ダム・高遠ダム・春近発電所」と出ていて、ここでどうしても「西天竜発電所」・「小黒発電所」、この2つが大事ではないかなと思う。これからずっと歴史を紡いでいく間に、この2つの発電所が書かれていないということが、どこかに全体の中に出ていますかね、それを読み込めなかったので失礼しますが、この小黒発電所は伊那谷で一番古い発電所で、明治4年から大正にかけて作られた発電所で、美和ダム・高遠ダム・春近発電所に比べると古い。こういうものが、大事にされてこないといけないかな。これは、電灯会社が作ったということで、これによって伊那電鉄が走っている。これは大きな歴史だと思う。小黒川の発電所は、昔は、桂小場から発電所上にヘッド水槽があり、そこへ水を貯めて下へ圧をかけて落とす。その管が昔は木管だった。これを補修するのが大変だったと、古老の話を聞いています。そこまでして水を上へ貯めて、木管で持ってきて貯めて、下へ落として発電して、その発電した電気をこの伊那谷を通る鉄道の発展に寄与している。もちろん伊那市の街の灯りもそう。そうするとこれはぜひ西部地区の所のどこかに

残したい。例えば P41 明治 40 年には伊那電気鉄道というのが書いてある。こういったところに挟み込めるのかなど。そんなことを考えて、難しい課題を今頃出して申し訳ないが、歴史の中では重要な位置付けになる発電所ではないかなど。現在も生きているということ。西天竜発電所も、西天の水路に流れているみずを小沢川へ落として発電している。いまでも発電としては採算に合わないということで、県は作るのを渋ったわけですが、農業振興の部分で作られ、かつ用水をあるいは農業用水に使わない水をそこで発電している。そのために小沢川から水を引いて足して、下へ落として発電していた。いわゆる西天の水だけでなく小沢川の水を使って発電している。現在は、その間竣工式があったのですが、かつての発電所を壊し、地下発電所になった。この歴史とってあるかどうかということ。大事なものではないか。いわゆる水利用です。先ほど言ったのは水の利用ですが、この間西天でんでん発電所という命名をつけて新しく変わってきている。こういったものは伊那の地にはなくてはならない大事な遺産なので、ぜひどこかで扱って、書き加えていただければありがたいなとそんな思いで発言しました。

会長：貴重な話ですので、やはり川の水を利用して発電したという、飯田線の通った一番の原点が発電にあったわけで、それは近代の歴史の中では色々なところで出てきますので、小黑川、西天この辺のところも何か表現で残しておく必要が確かにあるかと思えます。表現の方法でも結構ですし、表の方へ入れることが可能であれば、ダムも入れておく必要があろうかなと思えますが。西天の水も、だいぶ最近発電に利用してということが報道されていますが、ひっくり返して記録に残しておく必要があろうかなという気がします。事務局はどうでしょう、なにかご意見ありましたら。

事務局：いただいた意見ありがとうございます。もちろんここに載っていないものが歴史的に大事なものではないというわけではなく、私共も認識していかなくてはならない歴史的な事だと受け止めています。こちらの表については、天竜川と三峰川に関わる部分を中心に載せている中で、全体に川に触れている部分もありますが、三峰川総合開発事業というものに関連する中で、2つのダムと発電所を載せております。今お聞きする中で、こっちのダムや発電所があるからこちらもというふうに、すぐこの表の中に組み込めないというところもあり、この先ほどおっしゃっていただいた歴史の部分、P41 この部分の中で、今お話しいただいたことを文章で触れさせていただきたいと考えています。もちろんこの計画を通して、大事なもので漏れているものもあるかもしれませんが、それらが全て必要ではないとか守っていかないというわけではありませんので、その辺も含めてお願いします。

委員：入れるとすれば、そこか P64「歴史文化の特性」のところ、竜西というのがあるので、この中で伊那電気鉄道の駅というのが出てくる。こちら辺で扱えないやしないかと思ったのです。そして、右側の地図の中に発電所を入れていただければ、スペースをそんなに取らなくても可能かなど。後ろへ押しても3行程度で。そう思います。

会長：そんなことを参考にしながら検討をお願いします。

委員：私のチェックミスで高遠石工研究センターに関するところで、P104 下から 3 つめ、「一般社団法人高遠石工研究センター」が載っていて、「高遠石工の調査研究、映像制作」となっているが、映像や写真、冊子もやったり色々しているので、「高遠石工の調査研究・情報発信」に直していただければと思いますので、よろしくお願いします。

係長：映像制作にプラスして「情報発信」を

委員：映像制作は取ってしまっていていい。情報発信の中に色々ありますので。

係長：わかりました。

委員：余談になってしましますが、東駒と甲斐駒の話が出て、私共伊那部宿を考える会で、見学者のお客さんに説明する時に、伊那側からみたときの名称を東駒という説明をして、山梨から来た人たちには甲斐駒という言葉で説明を分けてやっている。山梨の皆さんはあくまでも甲斐駒だという。私共が教わった範囲では、仙丈の隣が東駒と教わってきた。私の地元は、甲斐駒かもしれないけど、東駒というのが常になっていますという案内をしている。そういうことはまずいかな。

次長：うちの市長も、西駒があつて東があるということで、伊那の中であれば、別に伊那市の人が、東駒があつて西駒があるということで使っているということでお話していただく分には全く問題ありませんし、市長も山岳会に入っているので、東駒・甲斐駒というのは、それぞれ言い分はあると思いますが、伊那市として、伊那市の中にいるときにはそういう使い方をしているので、それは全く問題ないと思うので、そういう使い方で結構です。

会長：よくある問題ですね。臨機応変に使い分けながらいくしかないかなと思います。他にはどうでしょう、特にいいですか。次第（2）その他、委員の皆さんから色々お願いしたいと思いますが、いいですか。それでは以上を持ちまして会議事項が終わります。委員の皆さんから色々な意見をいただきありがとうございました。これより進行を事務局へお返しします。

4 その他

課長：熱心なご審議ありがとうございました。それでは、4の全体のその他ということで、委員の皆さまからなにかありますか、よろしいでしょうか。事務局からありますか。

係長：お手元に伊那部宿の会報をお渡ししてあります。本日おいでになっている伊那部宿を考える会会長からご紹介がありましたので、会長、あまり時間はありませんがひととおり説明をお願いできればと思います。

委員：毎年広報伊那街道伊那部宿というものの発行を年一度行っている。この中身についてはそれぞれ読んでいただいて、色々参考になる部分もあるかと思います。今年で25号発行となりますが、25号というと今から平成10年に発刊された。それから1回か2回コロナなどで発刊できない年もあったが、25号までこぎつけた。この中で井澤のぶよしさん、昨年、一昨年、ご夫妻で千葉から私の家へ訪ねてこら

れて、その時に井澤という名称を出していただき、これは井澤家受託の関係のある方かなと尋ねたら、大ありだという話で、その時に原稿を何通か持ってきて、これを広報に載せて皆さんに知っていただきたいということで、広報に載せる条件があり、考える会の会員だけ載せるようになっている。この際会員になってほしいと言ったら、ぜひ会員にさせていただき、奥さんも一緒に会員になっていただいて、翌年が今回になります。ちょうど千葉から戦時中に、旧井澤家住宅に疎開してきて、2年くらい今の住宅に寝泊りしていたということで、いま井澤家住宅が9代目になりますが、9代目の中の、井澤さんというのが、いまの9代目のエイコさんと養子のショウイチさんから見るとおじになる。エイコさんにこのことを聞いてみたら記憶にないとのこと。おかしいなと思って詰めていったら、井澤家についてこちらの方のほうが相当明るい感じがしたので、早速広報に記載する許可をとり、載せていただいた。そうすると今までの旧井澤家住宅に関する条件や問題が、違った感覚で見られると思う。これはなかなか面白い。私のほうから、うちの広報部長に、広報にあげてくれとお願いして記載してある。その他、内容的には研修旅行の旅行記を載せたり、イベントの催しを載せてもらったり、伊那部宿の旧井澤家住宅にある、今たたずんでいるところは、元々は井澤家住宅があったわけではなく、武家屋敷で、そこら辺の記事が載っている。本来ならもう1ページ増えるが、今回は井澤さんの記事を中心に掲載させてもらっているのでも、ぜひ時間をとり、読んでいただければ幸いです。

係長：是非持ち帰って読んでいただければと思います。

係長：次回開催予定ですが、来月12月11日からパブリックコメントを開始する予定です。1カ月程度、年明けの1月成人の日おしまいあたりを目途にパブリックコメントをとる予定でいます。その内容をまとめて、2月あたりに最後の会を開催したいと考えておりますので、また日程が決まり次第連絡させていただきますけれども、ご予定をご承知おきくださればと思います。

5 閉会（15：00）課長

課長：その他よろいしでしょうか。長時間にわたりまして、熱心なご審議をありがとうございました。これにて第4回伊那市文化財保存活用地域計画作成協議会を閉じさせていただきます。